

## 令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題名	
「高校生版DMO」の活動を核とした地域観光ビジネス教育プログラムの開発	
2 研究の概要	
<p>本研究では、教科「商業」の学びを通して、将来、観光を軸にして地域社会で貢献できる専門的職業人としての資質・能力を育成するために、教科「商業」としてどのような教育プログラムが有効か、という点について、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技会場地（サーフィン）となった一宮町を中心とした外房地域の観光活性化に向けた取組を通じて明らかにする。具体的には、『マネジメント』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『観光・地域ビジネス』の5つの分野に重点を置き、本校生徒が、一宮町を始めとする隣接市町等との連携を軸にしながら外房地域の多様な関係者を巻き込み、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う組織（＝高校生版DMO）を主体的に運営し、各種観光データの活用による観光マーケティング戦略の策定や、「モノ消費からコト消費」の流れに対応した着地型観光商品・サービスの開発及び販売、インバウンド受入体制の構築、首都圏からの観光客をターゲットに据えたプロモーション活動及び関連コンテンツの制作に取り組む過程をとおして、専門的職業人を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科・科目横断的な視点を活用した、観光ビジネスに必要な知識・技術の習得に関する研究</li> <li>2 「高校生版DMO」としての活動による、実践的な観光人財の育成に関する研究</li> <li>3 生徒の主体的、協働的、実践的な学びを多面的に評価する方法に関する研究</li> </ol>	
3 令和2年度実施規模	
「第1, 2, 3学年を対象に実施した」	
4 研究内容	
○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）	
第1年次	<p>地域観光ビジネスの基礎的知識や、コミュニケーション能力、情報活用能力など、ビジネスに関する専門的知識・技術を習得させるとともに、地域観光の実状を理解させる。そのために、下記の内容で研究を進める。</p> <p>○5つの分野（『マネジメント』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『観光・地域ビジネス』）に重点を置き、それぞれ分野ごとに講演会の開催及び該当科目での学習による知識の習得</p> <p>○クロスカリキュラムを利用した効率的な学習カリキュラムの編成</p>
第2年次	<p>1年目の事業に加え、分野ごとに研究開発を進化させ、観光ビジネスに必要な知識・技術を習得させるとともに、「高校生版DMO」としての活動による、実践的な観光人材を育成する。</p> <p>○学校設定科目「地域観光Ⅰ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クロスカリキュラムの実践</li> <li>・「高校生版DMO」の実践的な活動研究</li> <li>・観光マーケティング塾（初級編）の開催</li> </ul> <p>○「コミュニケーション英語Ⅱ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的なコミュニケーション活動と実践的なコミュニケーション能力の定着</li> </ul> <p>○「地理歴史」</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な視点から見た、地域の地理的特徴の理解</li> <li>○「プログラミング」</li> <li>・一宮町の魅力として紹介する観光名所やイベント、歴史、店舗などについて紹介するマルチメディアコンテンツを作成 (作成するコンテンツは、写真、動画、音声などのデータをフィールドワークで収集し、観光アプリで紹介する一宮町の魅力に関するページ作成)</li> </ul>
第3年次	<p>2年目の事業に加え、 分野ごとの研究開発をもとに、地域に誇りと愛着をもち、より良い地域社会の構築に向けて主体的・協働的に取り組むことができ、専門的知識・技術を駆使した実践力を発揮することで、地域観光ビジネスの活性化を通じて地域社会に貢献できる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「プログラミング」</li> <li>・2年次に作成した観光コンテンツをアプリで表示する方法の学習</li> <li>・Googleストアにリリースして、ダウンロード数をもとにした作品の評価 (一宮町の観光アプリを開発することにより、IT技術を使った地域振興)</li> <li>○学校設定科目「地域観光Ⅱ」及び「課題研究」</li> <li>・「高校生版DMO」の本格的運営をとおした実践力の育成</li> <li>・観光マーケティングの実践的活動</li> <li>・コロナ禍において「今できること」の企画及び実践活動</li> </ul>

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

該当なし

○令和2年度の教育課程の内容（令和2年度教育課程表を含めること）

(1)「情報処理」

一宮町の観光や歴史に関する情報を収集・分析し、グループやクラスなどで観光アプリのアイデアについて、プレゼンテーションソフトを活用しながらコンテスト形式で発表させる。このことにより、情報収集・活用能力を高め、プレゼンテーションでの効果的な話し方や進め方などの技法を習得させる。そのために、下記の内容で学習を進める。

- ①アイデアを考案する方法についての講演会
- ②観光アプリアイデアを考案するための情報の収集
- ③プレゼンテーションソフトを活用したスライド資料の作成方法の学習
- ④聞き手に分かりやすく伝えるためのプレゼンテーションの学習
- ⑤観光アプリアイデアコンテストの実施

(2)「ビジネス基礎」

○地域観光ビジネスに関する基礎研究として、一宮周辺等における特色あるビジネスを調査し、町の観光ビジネスについての認知度を深める。

(3)「現代社会」

一宮町の観光資源について調査・研究を行い、風土愛・郷土愛を深め、2年生以降の学習に向かう基礎力を身に付ける。

○一宮町の歴史、自然・概要、特産品、観光、イベント、オリンピックについてなど、一宮町の魅力を発見し、観光地としての可能性を考える。

(4)「コミュニケーション英語Ⅰ」

外国人観光客を見据えた英語によるコミュニケーション能力の育成として、

- ①ガイドランス実施によるコミュニケーションへの動機づけを行う。
- ②授業における英語の5つの領域の統合的な言語活動実施による基本的なコミュニケーション能力の向上を図る。

(5)「マーケティング」「地域観光Ⅰ」

①観光マーケティングに関する講演を実施し、マーケティングについての専門的な知識や企画力を身に付ける。

②身に付けた専門的な知識と企画力を通して、具体的な戦略に基づいた高校生版DMOの運営や商品販売活動にむけた動機付けを行う。

(6) 「コミュニケーション英語Ⅱ」

1年生に実施した「コミュニケーション英語Ⅰ」の基礎の上に、

○授業における実践的なコミュニケーション活動を実施する。

(7) 「地域観光Ⅰ」

観光学を学びながら、「地域を知り・発信する」をテーマに一宮町のPRを効果的に行うための学習活動。

①「サーフィン業」と観光について理解を深める。

②「一宮町の観光資源」、特に「文化財」や「自然」について理解を深めるとともに、「オンラインによる地域の魅力発信」の学習活動。

③3年生の「地域観光Ⅱ」と連携した学習活動。

(8) 「プログラミング応用」

1年生の「情報処理」で実施したプレゼンテーションをもとに、2年生の「プログラミング」で観光アプリに掲載する一宮町の魅力を取材し、情報デザインの観点から観光コンテンツを作成する学習を行い、3年生で統合開発環境 Android Studio を使って一宮観光アプリを開発する授業を実施した。

①観光アプリ開発にあたり、開発環境の構築と使い方の学習。

②Android Studio の基礎的なアプリ開発による操作方法の学習。

③実際に一宮観光アプリの開発。

(9) 「地域観光Ⅱ」

「今、私たちにできること」をテーマに、町の方々とのオンライン会議で評価が高かった企画を実践活動。

①いちのみやスタンプラリー

②いちのみやすごろく

③ICHINOMIYA NAMINORI COLLECTION (オンラインファッションショー企画)

○具体的な研究事項・活動内容

(1) 『観光・地域ビジネス』分野

①「ビジネス基礎」

ビジネス経験のない生徒に、一宮周辺地域におけるビジネスに関する知識を習得させるとともに、ビジネスについての基礎を学ばせる。

②「現代社会」

一宮町の歴史、自然・概要、特産品、観光、イベント、オリンピックについてグループ学習を実施し、町活性化に向けた提案をまとめる。

・各グループで分担し、調べ学習を実施し、その結果を各グループ内で共有する。

・他グループへ、調べた成果を発表し、あわせて観光パンフレットを作成する。

・グループ学習を通じて、コミュニケーション能力の伸張も図る。

この学習をとおして、観光ビジネスに関する意識向上や観光アプリ作成に役立てる。

(2) 『国際交流』分野

①ガイダンス：9月1日（火） 1年生 商業科・情報処理科 160名 対象

・研究課題達成に向けた効果的な学習活動が実践されるよう学習目標を確認し、学習スケジュールを提示する。

②「コミュニケーション英語Ⅰ」

・コミュニケーションの基礎となる「自分を知る」「相手を知る」ために、英語で簡単な自己紹介を行い、英語を使う楽しさを知る。

③「コミュニケーション英語Ⅱ」

・身近に見かける標識に注目し、世界的に共通する標識を知ること、異文化を理解させる。

・自作のピクトグラムを考案させ、公的な空間でのルールやマナーを守る大切さを学習

する。

- ・各国の世界遺産を知る中で、世界遺産登録に至るまでの背景を国際的かつ環境保全の視点から学習する。

#### ④国際人度チェック

- ・グーグルフォームを使い、5つの質問項目を設定したアンケート調査

### (3) 『観光コンテンツ』分野

#### ①「情報処理」

- ・観光アプリのアイデア考案
- ・観光アプリアイデアコンテストの開催（「情報処理」各クラスで実施）  
このコンテストをとおして、技術的に実現が可能なアイデアを調査し、具体的に形に  
していくことができる。

#### ②「プログラミング応用」

- ・Android Studioという統合開発環境の使い方を学習する。
- ・合計や平均などの計算を使った基礎的なアプリの作成により、Android Studioの操作  
方法を学習する。
- ・実際に一宮観光アプリの開発を行う。

### (4) 『マネジメント』分野

#### ①一商版DMO「一商生の波乗れDMO」発足

- ・運営は、「地域観光Ⅰ」と「地域観光Ⅱ」の学びの中で行う。

#### ②学校設定科目「地域観光Ⅰ」

- 「知る」活動として
- ・「学校周辺の観光資源やお店の魅力発見」をテーマに調査
- ・「0-1 グランプリ」をテーマに一宮町のおすすめのお店を調査し、プレゼンを行う。
- ・「観光資源」の学習で「一宮町の国指定重要文化財・国登録有形文化財」について、  
一宮町のウェブページや資料をもとに理解を深める。
- ・SDGsの14番「海の豊かさを守ろう」と「サーフィン」に関連付けて、「一宮町に  
産卵に来る絶滅危惧種アカウミガメ」を守るための啓発活動を行う。（地元小中学生に  
伝えるためのコンテンツ作り）

#### ③学校設定科目「地域観光Ⅱ」

- 「今、私たちにできること」の活動として、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」「マイ  
クロツーリズム」など、観光の在り方に注目し、以下の3つの企画を実践する。
- ・地域に元気と活気を与える目的である「いちのみやスタンプラリー」
- ・一宮町の観光人材を育成する目的である「いちのみやすごろく」
- ・来訪者に一宮町のオリジナル商品の情報を提供する目的である「ICHINOMIYA NAMINORI  
COLLECTION」

### (5) 『観光マーケティング』分野

今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外部講師による学年全体に対する講演  
会ができなかった。そこで、1年生には職員によるガイダンス、2年生には「マーケティング」  
「地域観光Ⅰ」選択者に対してのマーケティング塾を開催した。

#### ①ガイダンス：7月30日（木） 1年生 商業科・情報処理科 160名 対象

演題「地域を『知る』『伝える』そして『守る』」

- ・この講演をとおして、一宮町が多様な自然環境と人文環境が共存した宝石箱のような町  
であり、その観光資源を生かした町づくりと今後の課題を理解するとともに、一宮町に  
ついて新たな知識を習得し、今後の観光マーケティングに役立てる。

#### ②講義：10月14日（水） 2年生「地域観光Ⅰ」及び「マーケティング」選択者対象

演題「デジタルマーケティングについて」

- ・2年生でデジタルマーケティングの講義を受けることにより、今のコロナ禍  
だからこそできる企画についての知識を身につけ、実践に生かすことができる。

## 5 研究の成果と課題

### ○実施による成果

#### (1) 『観光・地域ビジネス』

- ①一宮町周辺のビジネスに関する調査活動を実施して
  - ・町の魅力を今まで以上に知ることができ、またビジネスについての基礎も学ばせることができた。
  - ・今後の学習の動機付けができた。
- ②一宮町の歴史等についてのグループ学習を実施して
  - 一宮町の歴史、自然・概要、特産品、観光、イベント、オリンピックについてグループ学習を実施し、観光パンフレットを作成することで、一宮町の概要についての知識を得ることができ、観光客増加に向けたアイデアも生まれるようになった。また、グループ学習を通じて、コミュニケーション能力も伸張した。あわせて一宮町活性化の提案をまとめることで、観光ビジネスに関する意識向上や観光アプリ作成に役立てることができた。

#### (2) 『国際交流』

「外国人観光客の困りごとを解決し、支援できるコミュニケーション能力の育成」を目標に掲げ、ユニットが目指す「英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度と能力の育成」は、他ユニットの目標達成を補助する役割がある。東京五輪という世界的イベントの時期に、地元地域でその成果が発揮されることを想定しつつ、さらにはオリンピック後の観光復興を視野に入れ、着実にコミュニケーション能力を向上させている。

- ①1年生では、「講演会の実施によるコミュニケーションへの動機づけ」と「授業における英語の5つの領域の統合的な言語活動実施による基本的なコミュニケーション能力の向上」を2つの柱として学習活動を実施した。ガイダンスでは、コミュニケーション能力の大切さ、特に言葉が果たす役割の重要性や、マスク着用での「話す」活動であったため、聞き取ろうとする態度の大切さや非言語（ノンバーバル）コミュニケーションの重要性に気付いた生徒も多くいた。
- ②2年生では、1年生で獲得した基礎の上に、「授業における実践的なコミュニケーション活動」を柱として学習活動を展開した。普段自分たちが生活している中にピクトグラムが多く存在し、それが外国でも使われていたり、一目見て世界共通でわかるメッセージ性を持っていたりすることを生徒が知り、ピクトグラムを通して日本と世界のつながりを感じさせることができた。一つの標識に2か国語で表記がされている国の状況について想像し、異文化と隣り合わせの国がどのようにしてお互いに友好関係を築いているか関心を持たせることができた。また世界遺産についての学びを通して、生徒が国際社会に興味を抱き、強く印象に残ったことがわかった。環境問題について生徒は自分たちにできることを考える機会を持つことができた。

#### (3) 『観光コンテンツ』

- ・一宮観光アプリ開発の学習を終え
- ①プロジェクトの作成、コーディング、テスト、デバッグといったアプリ開発の一連の流れを体験的に学習することができた。
  - ②JPEGやPNGといった画像形式の特徴を理解することができた。
  - ③Android Studioには、Google Map APIのような複雑な手続きを必要としないで利用できる機能が多数用意されているため、プログラムはなるべく短く整理して、1回の実習で1つの機能やテーマを学べるよう授業を計画すると学習効果が高まることがわかった。

#### (4) 『マネジメント』

- ・地域との連携を軸にしながら外房地域の多様な関係者と協働して、高校生版DMOを主体的に運営する過程をとおして、専門的職業人を育成することを目指す学習活動の2年目。
- ①1年生では、各ユニットでの学習活動を通して、観光や一宮町について興味関心を持たせる。
  - ②2年生の「地域観光Ⅰ」の学習により
    - ・「SDGs」や「海の環境問題」についての理解を深めることができた。

- ・「観光」を「環境問題」と結びつけて考えることができるようになった。
- ・次年度の「地域観光Ⅱ」で取り組む「地域の活性化」へ向けた「観光コンテンツの企画立案」につながる学習となった。

③ 3年生「地域観光Ⅱ」の学習により

- ・「今、私たちにできること」を主体的・創造的に思考したことは、観光の学びの幅を広げることにつながった。
- ・仲間や地域の方々と協働し、何度も壁にぶつかりながらも調査と話し合いを繰り返しながら課題を解決しようと取り組む中で、新たな道を切り開こうとする姿勢が身に付いた。

(5) 『観光マーケティング』

- ① 1年生では、ガイダンスを通じて、今まで知らなかった一宮町の魅力等を知ることにより、来年度以降のマーケティングに対しての生徒たちへの意識付けができた。
- ② 2年生では、1年時に講演会で、一宮町の現状と課題について知ることができ、また県内で活躍している企業の担当者からの話により、マーケティングの基礎的な知識を得ることができたので、その一つ上の段階としてマーケティング塾を行うことにより、より専門的な知識や企画力を身に付けた。今後の発展学習の基礎づくりができた。

○実施上の問題点と今後の課題

本校では、観光を軸にして地域社会に貢献できる専門的職業人としての資質・能力を育成するために、どのような教育プログラムが有効か、という点について、一宮町を中心とした外房地域の観光活性化に向けた取組を通じて『マネジメント』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『観光・地域ビジネス』の5つの分野に重点を置き、研究を進めてきた。

- ① 地域人材や組織・団体との連携は、本研究の推進に不可欠であった。今回高校生版DMOの組織作りはできたが、今後も地域の思いと学校の狙いを十分に話し合い、高校生版DMOが有効に機能するための望ましい姿について検討を続けていく必要がある。
- ② 目標に向けた学習活動の達成度を判断するために、ルーブリック等の評価を示し、それをいかした指導と評価の一体化に取り組んできたが、今後もなお評価の研究は進めていかなければならない。
- ③ 今年度はコロナウィルス感染拡大防止の観点から、多くの企画の見直しを余儀なくされた。しかし、これまでに学んできた5つの分野の知識・技術を活用し、地元店舗の協力を仰いで、オリジナル商品情報の提供としての動画によるファッションショーの発信といった『今だからできること』をテーマにした企画が実践できた。コロナ禍という観光ビジネスにとって困難を極める状況においても、臆することなく地域人材や組織・団体との連携や観光マーケティング、観光地域ビジネス等、これまでの集大成ともいえる活動を生徒が主体的に行ったことは、大きな収穫であった。

しかし、今後の課題も多い。来年度に延期された東京オリンピック・パラリンピックに対する取り組み方は大幅な見直しが必要になることが考えられる。コロナウィルス感染拡大防止の影響や、それによる地元の観光ビジネスの変化にも柔軟に対応しなければならない。新たな観光コンテンツの登場も考えられる。大きく変わっていく地域社会において、ますます地域の組織と密接に関わり、ビジネスに参画していくことが重要である。このような活動の中で、専門的職業人としての知識や技能を備えた人材を育成していく必要がある。